

Book

最近、おもしろかった本

『ズッコケ中年三人組』

那須正幹 著 ポプラ社 1050 円 (税込)

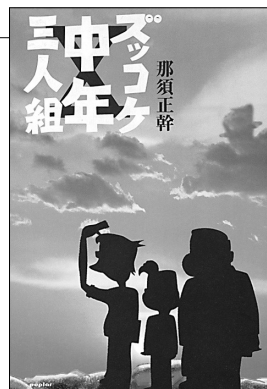
26 年続いた人気シリーズの特別版 小学 6 年生の三人組が 40 歳になったら…

この本は、1978 年から 2004 年まで 26 年にわたり続いた人気シリーズ (全 50 巻完結)、「ズッコケ三人組」の特別版である。若手の会員の中には少年時代に愛読された方が、またベテランの会員の中にはお子 (孫) さまが愛読されている方がいるかもしれない。同シリーズはすべて小学 6 年生の三人組が主人公であるが、本書は 40 歳になった彼らの活躍を描いている。

私がこのシリーズを知ったのは、愛読していた息子から薦められてである。試しに読んでみたところ、なかなか面白く、懐かしく、つかの間楽しい気分になった。そうした中、本屋で見つけたのが本書である。

さて、本書であるが、出だしに今まで読んできた少年時代の物語にはない大人の悲しさ (現実感) が漂う。しかし、読み進んでいくうちにこれはあまり気にならなくなる。そして、いつのまにか少年時代の物語と変わらないことに気がつく。これは、主人公 3 人の長所・短所、気質、行動パターンなどが少年時代のそれらと変わっていないことによるものであろう。また、少年の悩みも大人の悩みも基本的には変わらないこともその理由であると思われる。本書を読むと、自分も少年時代と変わっていないのだろうか、わずかでも成長したのだろうかと自問するきっかけとなる。

(会員 三竿 径彦)



東京弁護士会大運動会 第 50 回大会 秋晴れのもと各種競技が展開

本年度 50 回目を迎えた東京弁護士会大運動会は、会員・家族・事務職員も共に楽しめる福利厚生の一環として 1957 年に始まった。11 月 3 日の文化の日の祝日に、江戸の名園を今に残す特別名勝六義園 (写真上) に隣接する六義公園運動場に約 500 人が集い開催された。娯楽が多様化した昨今においても、運動会は晩秋の風物詩として定着した東弁の最も大きなイベントの一つである。50 回を記念して会員券を完全無料化し、豪華景品の福引にはペアでハワイ旅行が準備された。

競技種目にも工夫を凝らし、運動会本来の走る趣向から、見る人にとっても微笑ましい光景がみとれる競技も取り入れた。その一つが“東京三会親善ビックリむかで競争” (写真下) であった。これは 5 人 1 組でいろいろな障害を乗り越えていく、まさにチームワークを競う競技である。フットワークのよさを発揮して東弁理事者チームが優勝した。また、絶叫の綱引き、運動場を周回する恒例のマラソン大会等々が次々に展開された。

最後にお楽しみの福引大会の超目玉のペアでのハワイ旅行は、中村雅人会員が見事仕留めた (写真中央)。秋晴れのもと、みんなで集い共に楽しんだ一日であった。

*表紙裏にも写真掲載



『空中庭園』

2005年／日本／豊田利晃監督作品

“家族間に作らない”はずの秘密 次々と暴かれていくとき

公開前に監督が覚せい剤取締法違反で逮捕されてしまい、公開自体が危ぶまれたが、何とか一部のミニシアターで短期間上映された作品。「対岸の彼女」で直木賞を受賞した角田光代の同名小説の映画化である。

物語の舞台となるのは、ニュータウンの団地に住まう京橋家。「何事も包み隠さず、家族間に秘密を一切作らない」というのが京橋家のルール。

冒頭場面、長女マナは、朝食の場で、父・貴史（板尾創路）と母・絵里子（小泉今日子）に、自分がどこで「仕込まれたか」、つまり誕生（受精）の場所を尋ねるが、絵里子はあっけらかんとその場所が近所のラブホテル「野猿」であったと答える。

こうして一家は何もかも明らかにしているようで、実はそれぞれに秘密を抱えている。

父・貴史は2人の愛人と不倫を繰り返しているし、母・絵里子は実は元生徒会長などではなく、子供時代いじめられっ子で、子供時代からの母親との不和に悩んでいる。長女マナもいじめに遭い、不登校になり、援助交際した写真を投稿までされている。弟のコウも学校に行っていない。

そうした中、貴史の愛人の一人ミーナがコウの家庭教師に

なり、京橋家に入り込んできたことをきっかけに、家族の秘密が次々と暴露されていく…。

作品のところどころに、薬物使用の影響を色濃く感じさせるシーンが出てきて、それもまた興味深い（ラブホテルの壁の幾何学模様、団地の360度回転、絵里子の喫茶店での同僚をフォークでメッタ刺し想像シーンなど）。

終盤、絵里子が自分の「思い込み」に気づき、京橋家のベランダで、自分の作ったガーデニングに囲まれ、赤い雨の中で泣き叫ぶシーン。マナの援助交際の相手がラブホテルでつぶやいていた「人は皆泣きながら血まみれで生まれてくる」という言葉を見事に体現した象徴的なシーンである。

現実の家族間のトラブルでも存在する「思い込み」。その「思い込み」が当人を傷つけ、他者に対する障壁になっているということを考えさせる映画である。

ほぼ同時期に見たアカデミー賞作品賞受賞作「クラッシュ」では、アメリカにおける人種間の不理解に基づく衝突と、人が衝突して、初めて互いを理解できるさまが描かれていて、やはり考えさせられる内容だったが、両映画を併せて観るのも一興である。

（会員 石橋 武征）



『空中庭園』（通常版）
発売元：『空中庭園』製作委員会
販売元：（株）ポニーキャニオン
税込価格：3,990円